

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和8年1月20日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670103730
法人名	有限会社 友星メディカル
事業所名	グループホーム 笹貫の家(2階)
所在地	鹿児島県鹿児島市小松原一丁目1番2号 (電話) 099-268-2627
自己評価作成日	令和7年12月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和8年3月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームの裏手を鹿児島市の市電が日頃から行き来しており「ゴトン、ゴトン」と市電の走る音が心地よく聞こえる場所にあるグループホームです。鹿児島市南部のほどよい街中にあり、市電の他に公共交通機関は充実しており、ご家族様等の面会には便利な地域にあると思います。「あなたが今できることを大切にし。」職員他「地域や家族と共に支援し、」「笑顔の絶えない/ゆっくりと安らげるグループホームを」との理念を掲げて、利用者様の生活ペースを大切にそて、お一人おひとりの想いや時間に寄り添い暮らし共にさせていただいています。感染症対策を行いながら、定期的な外出や皆様に喜んでいただける季節ごとのイベント等を計画し行えるよう取り組んでいます。町内会に加入して、清掃活動や防犯パトロール参加を通して、地域の方々とも日頃から交流させていただいています。健康管理・医療的な支援については、利用者様が希望される医療機関や協力医療機関への通院や訪問診療での支援をし、医療連携している訪問看護ステーションに、日頃から利用者様の健康状態を情報共有や相談できる体制があることで、健康についての安心に繋がれるよう取り組んでいます。他、協力歯科医院があり、通院支援や歯科訪問診療をして、お口の健康を保てることで「いつまでも美味しく食事がとれて、元気で過ごせます。」の理念を实践できるよう取り組んでいます。毎月「笹貫だより(ホームお便り)」をご家族様等に送付して、ホームでの暮らしの様子や予定などお伝えし、ご家族様等に本人様やホームのこのの情報を共有させていただいています。ホーム近隣に公園やお店、レストランや郵便局などあり、地域の社会資源にも恵まれた環境にあり、晴れた日は心地よい陽光が差し込み、時間の流れがゆっくりと感じられるグループホームです。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念は毎日朝礼後に唱和している。利用者主体の生活ができるよう理念に基づき、地域・家族と共に支えていくという事を再認識する意義を踏まえ、実践につなげている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。町内会主催の夏祭りには、利用者様の心身の重度化であったり、熱中症等を鑑みて参加を控えたが、地域の清掃活動や夜間の防犯パトロールには定期的に参加させていただき、日常的に地域の方々と交流をさせていただいている。		
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	今年度はコロナ・インフルエンザ等の流行に支障の無い範囲で外部からの参加をお願いしている。これまでも運営推進会議に地域の方や家族・利用者にも参加していただいたり、地域の行事に参加させていただく事で、認知症の人への理解や支援の方法の理解を深めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に一度開催して、前回から今回までの運営報告や今後の取り組みについて話し合っている。ここでの意見をホーム便りに掲載し、家族の共通理解を得られるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	要介護認定申請時には、介護保険課や高齢者福祉課には、電話や役所に出向いて、必要に応じてサービス上の相談や協力を得るようにしている。担当地域の地域包括支援センターには、運営推進会議に参加していただき、情報交換に努めている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束マニュアルを作成。スタッフルームには、身体拘束の3原則などについて掲示し職員の意識付けを行っている。月1回の定例ミーティングにおいて、身体拘束を行わない為の研修を繰り返し、確認実施をしている。各階のスタッフ間で情報共有し、寄り添いながら安全で自由な生活をしていただけるよう支援している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	日々の更衣時やトイレでの排泄時、入浴の時間での身体チェックを行い、虐待と認められるような痕跡がないか注意深く観察したり、報道であった事例を回覧したり話し合っている。毎月の定例ミーティングで、内部研修や外部研修等において、職員の認識を高めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	管理者や職員は、権利擁護についての研修をミーティングで行い、成年後見制度の学びを深めている。成年後見制度を利用されている利用者様がおり、折にふれて話し合えるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約を行う際は、契約書について丁寧に説明し、疑問がないかをその都度確認しながら行っている。また内容について具体的な例をあげ、できるだけわかりやすく理解していただけるよう心がけている。介護報酬改定時やその他契約上に変更がある時には、面会時や文書にて説明をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	意見箱や相談苦情ノートを準備しているが、日頃から何でも話せる雰囲気作りを心がけている。利用者の状態報告は、面会時や電話にて行っている。また直接管理者や職員に意見や要望を言うてくださる方が多く、その時々ニーズにお応えできるよう努めている。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月に一度の法人内GH管理者会議や、月例ミーティングにより、代表者や管理者は、職員からの意見を聞く機会をもち、会議で決まった事を反映できるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は管理者からの連絡相談を受け、職員の勤務状況や実績などを把握している。また本部のGH管理課や人事課職員への相談や助言もいただいたり、配置転換や各個人に見合った職場への異動等を適宜行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修案内が情報発信され、職員や管理者はそれぞれのレベルに合わせ、研修参加をしている。また新人職員に対しての研修は、日々の業務の中でベテランスタッフによるアドバイスや実践トレーニングが行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	月々の管理者会議で、管理者同士の交流や情報交換が行えている。例年は地域・町内会主催の夏祭りや交流会を通して、他事業所と交流しながら、相互のサービス質の向上や職員同士のスキルアップの刺激となっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様自らが困りごと等を伝えることができる場合は、ゆっくり話を傾聴して、本人が安心できるような声かけに努めている。また自ら伝えられない方に対しては、本人のしぐさや表情からの気づきを基に信頼関係を作れるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	日頃かねてよりコミュニケーションを図れるようにし、家族の要望や不安な事は随時相談していただけるような機会をもち、職員間で情報共有に努めて、同じご対応ができるよう心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現時点で気になっている事や困りごと、ニーズや心身状況の情報を教えてもらい、家族の負担軽減ができるよう、本人にとって一番適切と思われるサービス等をご提案させていただいている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日々の生活の中で、日頃からコミュニケーションを図りながら、顔なじみの関係を築く努力をし、利用者と同じ目線にたち一緒に過ごすことで、お互いを必要としている事同等の立場でいることを認識してもらうよう努めている。可能な限りお手伝いしていただき、その都度感謝をお伝えできるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時に本人居室やホーム内に立ち入る事は感染症対策の為に一部制限させていただいているが、電話等にて日頃お近況を報告し、日々の生活の中での喜びや不安と一緒に分かちあい、職員も同じ立場で本人が楽しく穏やかに過ごせるように、家族様と共に支援できるよう努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者にとってのなじみある方との面会是一部制限しているが、電話やハガキの取次などを行うことで、関係性の継続支援をしている。面会時は感染症対策を講じた上で行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の個性を把握し、相性や関係性を考慮しトラブルにならないように支援している。また利用者同士がお互いを認めて、それぞれができない事を支え合えるような関係作りの支援に努めている。コミュニケーションが困難な方は職員が間に入り仲介役となり支援できるよう努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されてからも、いつでも相談や支援をできるようにしている。今でも退去された方のご家族と交流があり、何かしら連絡してくださったりお声をかけていただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりにおいて、表情や行動からの気づきを大切にコミュニケーションを図り、関係性を大事にしながら利用者がどのような生活をしたいのか把握できるよう努めている。意思疎通の困難な方には、家族からも情報を頂けるようにしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際に本人や家族からこれまでの生活歴を教えていただき、細かいヒアリングで情報を得られるように努めている。またスタッフ間で情報共有をし、日々のケアに反映できるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別に一日の過ごし方や心身状況の変化などを日誌やケース記録をし、いつも職員間で同じ情報を共有できるように努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活で利用者の思いや必要としていることを汲み取る努力をしている。本人や家族の意思を確認し、担当職員を中心にアセスメントを行い、利用者にとってその時点で一番良いケアができるようなプラン作りに取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果・気づきや工夫をケース記録している。記録の内容は具体的に記入できるようにして、その記録を通してケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨時の病院受診の際の送迎支援を行っていたり、利用者の個別の外出にも状況に合わせてスタッフが付き添うなど支援させていただいている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員と意見交換する機械を設け、地域イベントを通しての交流などで支援させていただいている。一般のボランティアも受け入れして、本人の力を引き出せる手助けの一部を担ってもらえるようにしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にはかかりつけ医の有無を確認し、本人や家族の意向を伺っている。通院や往診など、希望される医療機関をうけられるよう支援している。その際はホームでの様子の記録や気づき等の情報を報告書にして円滑な受診ができるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中でのちょっとした気づきや普段と違う変化を大切にし、事業所内の淳看護師に助言をもらったり、医療連携先の訪問看護STの看護師にも状況や気づきを伝えて助言をいただき、必要に応じての受診支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	例年は職員が入院先へ面会訪問して、利用者の状態等を伺い、情報提供してもらったりカンファレンスに参加させていただいてホーム側の意向も取り入れてもらっている。できるだけ早く退院とホームへの帰居ができるように取り組んでいる。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	一昨年10月に事業所で初めての看取りを経験させていただいた。今後も終末期を見据えた利用者については、家族と面談を行い、折に触れ今後についての方針を話し合えるように働きかけながら支援に努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命マニュアルを作り、研修やミーティング等において実践が身につくよう勉強会を行っている。またホットライン担当を割りあて、利用者の夜間急変時にもすぐに対応できるような体制づくりも行うように試みている。心配蘇生法や応急手当、暑気対応の方法を避難訓練時に消防署職員から教え		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	例年、定期的に行う避難訓練の実施や職員間の連絡網の周知、ミーティングや研修において、非常災害等におけるマニュアルの確認を行っている。災害に備えて食料や水等も備蓄している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対しては、年長者であるという尊敬の念を表し、傷つけてしまうことのないように、親しみを込めた中にも言葉遣いには細かい注意を払っている。個人情報には十分配慮して、目に付かないような保管をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で、個々人のペースに合わせて態様や表情の変化に気をつけ、何をしたいのか、何をしてもらいたいのかを汲み取り、また声かけにて聞きだし、最終的に本人に自己決定してもらえるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人の性格や生活リズムを把握して、職員側の都合を優先させないように、その人のペースで過ごしていただけるように、その時の様子を見ながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	起床時に整容し、自己決定できる方には本人に衣類を選んでもらい、自己決定しにくい方にはスタッフが一緒に考えて本人の気持ちに沿うようそれぞれ着替えてもらっている。必要に応じてホームまで訪問美容師に来てもらいヘアカットをしてもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の下準備を一緒に行ったり、献立を通して話をしたりしている。食事中も箸の進まない方、食べ方のわからない方に声かけし、必要な方へは介助しつつも楽しい雰囲気の中で食事していただいている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士資格のあるスタッフが作成した献立やバランス弁当により食事を提供している。食事と水分摂取量を記録し、全スタッフが把握している。持ちやすい食器や個々に合ったし食材形態での提供をするなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きの声かけをし、見守りや介助を行っている。就寝前は義歯使用の方は洗浄と消毒をしている。定期的に歯科受診や歯科往診に来ていただいている。管理ファイルを作成し、口腔状態を全職員が周知理解できるようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、定時でのトイレ誘導を行い、なるべく失禁の無いようにしている。失禁時は下清拭・更衣を行っているが、自尊心を傷つけないように細心の注意を払っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日10時のお茶時にヨーグルトとヤクルトを提供している。日中の水分補給の充実や家事参加、腹部マッサージを心がけている。どうしても便秘がちな方に対しては、主治医処方の間下剤を使用されている方もいる。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	週2回の入浴をもとに、その人の体調、希望をふまえながら、なるべくその人に合ったタイミングで気持ち良く入浴していただけるよう支援している。入浴を好まない方や気分が乗らない方に対しては、無理強いせず日を改めるなどの対応をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後は短めの昼寝を促したり、個々に合った方法で休息していただいている。夕食後は声かけにて居室案内し、入床を促し精神的にも安心していただけるよう寄り添う支援をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院受診ファイルで管理し、職員が薬の使用目的や副作用・用法用量等について理解している。服薬時はその方にあった服薬方法で内服していただき、手の平に渡す方、服薬ゼリー等に混ぜる方など、きちんと飲み込むまで確認している。一人ひとりを良く観察し、変更あった際はもちろん、変化のある時は主治医に連絡するなどして、すぐに対応できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の能力を見極め、それぞれが得意とすることで力を発揮し、やりがいを持っていただけるよう一人一人に合った役割を模索し、自信ややる気、役割をもって生活できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍の頃より一部、ご家族の面会や外出については制限させていただいているものの、現在は一部緩和している。例年は家族の協力のもとで、できる限り希望に添えるような支援を心がけている。現在はドライブを兼ね季節のお花見など、なるべく希望に沿えるように個別で支援している。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族よりお小遣い程度のお金をお預かりし管理しているが、日用品をはじめ何か欲しいものがある際は、いつでも使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者の希望に応じて電話を代わりにかけて差し上げたり手紙が出せるように支援している。また遠方の身内から贈り物が届いたらお礼の電話を差し上げるなどの支援をしている。本人や家族の希望により、携帯電話を持たれる方もおり通信支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光はカーテンや照明で配慮し、室温は空調等で調節している。利用者にとって不快となる音を職員がたてないように努力している。季節ごとに季節館のある貼り絵や切り絵等を可能な方には一緒に作っていただき飾っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファが置いてあり、利用者同士仲良く座り、談笑したり歌ったりされくつろがれている。ソファを自分の居場所として捉えている方もおり、思い思いに過ごせるように支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自宅より馴染みの使い慣れた家具・生活用品・装飾品を持ち込まれ、安心して過ごせる環境づくりをしている。自分の空間として居心地よく過ごせるような工夫を行っている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており、各所に手すりがついている。各居室の入口には表札があり、トイレ入口とドアに「お便所」、浴室前には「湯」の暖簾がかけてあり、わかりやすい工夫をしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
		○	4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
		○	3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない